

タイトル：京大坂道不動坂遍路道

京大坂道不動坂の遍路道は、昔高野山を京都や大阪に繋いだ道の一部を構成しています。高野山ケーブルカーの極楽橋駅周辺から始まり、険しい坂をくねくね登ると、いろは坂で二つの道に分かれます。一つは本来の不動坂コースであり、二つ目は1915年に造られたものより簡単な道です。簡単な新しい道か歴史ある本来の道かを選べるようになっています。二つの道は清不動堂で一度交わり、そして遍路道の終点の約400m手前の花折坂でまた一つの道になります。これは不動坂口女人堂にあたるところです。

不動坂ルートの近くには、日本固有の針葉樹コウヤマキの植林が広がっています。コウヤマキははるか昔から高野山で生えており、その針葉はまるで花のように渦を巻いて育ち、切り離されても長持ちするので、コウヤマキの枝は正式な場やお寺やお墓での供え物として用いられます。

昔、不動坂の遍路道を歩いていたのは巡礼者だけではありませんでした。他の旅人も高野山の道や女人道を使って高野山の反対側など日本のあらゆるところへ旅し物資を運んでいました。不動坂の遍路道はこの中でも最も重要で賑やかな道で、不動坂口女人堂は聖なる山を登る旅人の待ち合わせ場所や宿泊場所とされていました。また、歴史的に不動坂口女人堂は女性が高野山にもっとも近づける場所でもありました。明治時代（1868～1912）までは宗教による制限によって女性は高野山の聖域に立ち入ることは拒まれ、女人道を使って高野山をまわっていました。

高野山の歴史において不動坂の遍路道の終点で女人堂以外にもたくさんの建物が建てられましたが、その時その時によって建物の数やその性質は旅人の必要に応じて変わり続けて来ました。

電車や道路、高野山ケーブルカーが高野山へのアクセスを代表するようになり、不動坂の遍路道は明治時代初期には使われなくなってしまいました。しかし今でも巡礼者やハイカーは不動坂やより長い町石道コースを使い自ら徒歩で高野山に挑み続けています。